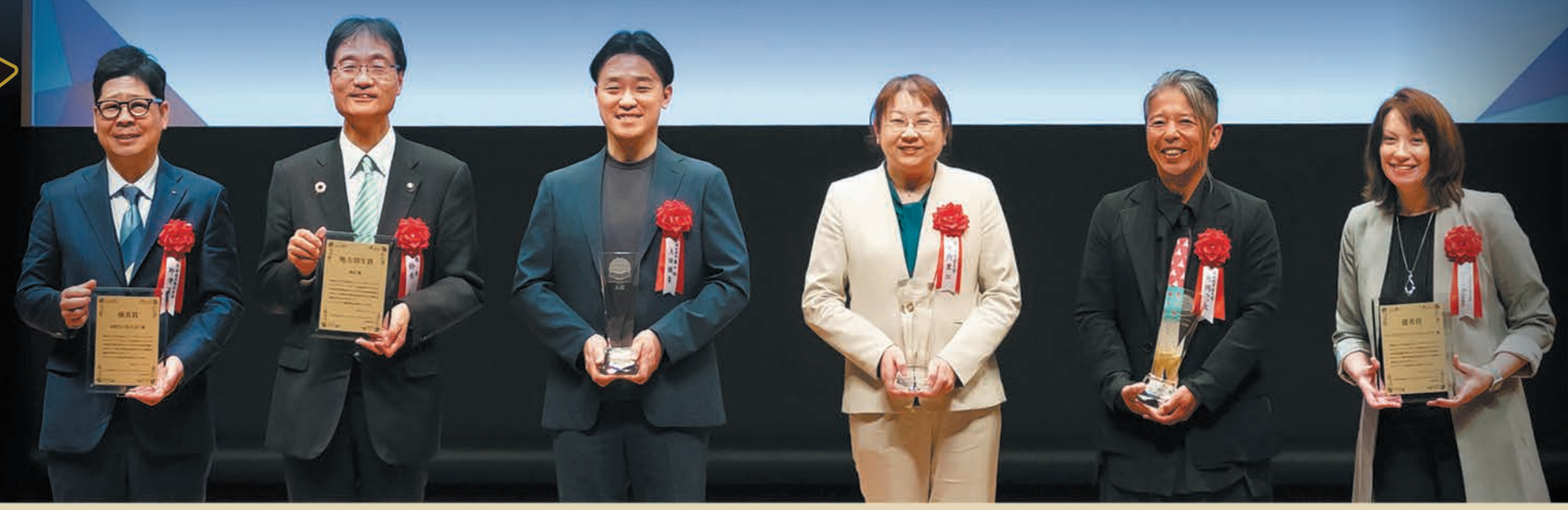
第６回 学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワード

大賞は麦の穂、椙山女学園



経済産業省、厚生労働省、内閣府、文部科学省、日本経済新聞社、マイナビが後援する「学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワード」は５月24日、都内で第６回目の表彰式を開催した。麦の穂と椙山女学園大学による産学連携の取り組みが大賞を勝ち取った。

★ 大賞 ★

麦の穂
椙山女学園大学（大阪府）（愛知県）

産学連携の理想形

女性社員の退職が続く経営課題からキャリア教育の必要性を感じ「日本で一番人が育つ会社」を目指す麦の穂。女性が自立し生きていく力を養成し、仕事と生活の最適なバランスを図りながらライフステージ毎の課題を乗り越えていくことを応援する「トータルライフデザイン教育」を掲げる椙山女学園大学。企業の経営課題と大学の教育理念が合致した産学連携プログラムである。大学のキャリア教育と実店舗での現場体験、営業企画や商品企画など独自のジョブローテーション制度を連携し構成されており、活きたキャリア教育の共有が可能に。企業はリアルな経営課題を開示し、社員と学生がともに考えることが双方の成長を促す。体験や学びが正しい仕事理解と自己理解につながり、一人ひとりのキャリアデザインスキルが向上する発展的かつ納得度の高いプログラムである。

麦の穂　執行役員 経営管理本部本部長
兼 経営企画室室長 兼 人事部部長 上田勝幸氏

★ 文部科学大臣賞 ★

北九州市立大学（福岡県）

〝自分軸〟を確立する挑戦

地域の再生と創造を担う人材の育成を目指して２００９年に地域創生学群を開設。実践と理論の両立を教育理念とし、地域での実践活動を必修科目として単位化。今回受賞したチャレンジプログラムは「起業トライアル」と「リアル就職」で構成された同学群３年生向け正課科目。前者はオウンリスクで９か月間に及ぶ事業運営を行うもの。後者は週３〜４日のフルタイムインターンシップを５か月間実施するもので、学生はリアルな職場での日常業務とプロジェクト型のミッションを担う。プログラム前後の手厚い研修が好評で、多様な学びの提供とともにフィードバックやメンタリングにも注力。学生は振り返りと言語化を繰り返し、徹底的に自己と向き合うことで自分軸を確立できる。挫折や失敗を乗り越え最後までやり抜くことで、様々な学びが得られるプログラムである。

北九州市立大学　地域創生学類長
片岡寛之氏

★ 優秀賞 ★

テンプル大学ジャパンキャンパス（東京都）

米国型単位制インターンシップを創立当初の１９８２年から実施。期間は２〜４か月と長期で、合計１４０時間以上。インターンシップ先は民間企業や非営利団体、政府機関を含む約１００社・団体と提携し、学生の興味・キャリア志向に幅広く対応。応募先選定、書類作成や面接まで、一連のプロセスを通して、主体的な学びと成長の機会が得られるように設計し、大学教員の指導・評価も得ながら、業務を通して実践的な経験を積むことができる。グローバル人材の育成を目的とし、共通した評価項目を受入れ先および学生自らが採点。集計結果から学生が自己分析できるスキームを構築している。

島根電工（島根県）

島根県立大学と連携し長期有償型インターンシップを開催。学生は、社の課題であったＳＮＳ活用の広報活動を担い「学生広報室」と称し社内報や会社紹介冊子の作成、ＳＮＳによる情報発信など半年間にわたり活動した。職場での社員交流を通じ企業文化や風土に直接触れてもらうなど企業理解に主眼をおき、生きた情報と魅力を学生自らが発掘。発信した広報動画は総再生回数１２７万回を超えるなど高い成果をあげた。主体的に考え発想し、行動できるようにフィードバックはあえて「与え過ぎない・伝え過ぎない・教え過ぎない」など工夫を凝らした。

★ 地方創生賞 ★

燕市（新潟県）

金属加工業で名高い燕市が展開する産学官連携プログラム。中小企業が多いが世界的に評価を受ける製品も多い地域の特徴を生かし、日本全国・海外から学生を受け入れ、就職体験型から課題解決型、企業への提案型まで多様な学びの場を提供する。県外の学生も長期滞在できる宿泊・交流施設を用意し、ここでしかできない体験と機会づくりから、学生と企業の視野と価値観を広げている。地域にとっては、将来の需要者に製品や技術を知ってもらう意義のほか産業や地域の活性も目的であり、学生と市が協創する地方創生インターンシップの模範である。

★ 入賞 ★

- ■帯広市（北海道）
- ■カタヤマ（埼玉県）
- ■金沢工業大学（石川県）
- ■ＳＯＬＩＺＥ（東京都）
- ■東邦音楽大学（埼玉県）
- ■ニトリホールディングス（北海道）
- ■日本総合研究所（東京都）
- ■ミルボン（東京都）

CAREER DESIGN PROGRAM AWARD

【学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワード】とは

学生の社会的・職業的自立に貢献したインターンシップやキャリア形成支援に係る取り組みを表彰するアワードです。本アワードを通じて学生の職業観涵養（かんよう）を促進する効果的な取り組みを周知することで、プログラムの質的向上および実施企業数の増加を実現し、学生と企業のより精度の高いマッチングを目指します。

６回目の開催になる今回から「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取り組みの推進に当たっての基本的考え方」に則り、名称を「学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワード」に変更しました。「キャリアデザインプログラム」という言葉を「インターンシップ」に限らず、それ以外のキャリア形成支援に係る取り組みを総称する言葉として設定し、学生にとって真に有益なプログラムの形を模索・発信しています。

- 大学等、企業、地方公共団体またはその他団体からの応募（受け付け・締め切り１月末）
- 応募プログラム参加学生アンケート開始（２月末まで実施）
- ▼
- 学生部会による審査
- ▼
- 選考委員会による審査
- ▼
- 表　彰

REVIEW

審査講評　学びを深める産学連携

大賞は単なる産学連携の域を超えた学びの密度が感じられる好プログラムだった。また文部科学大臣賞は学生と大学・企業側の言語化が結びついて相互に発展していく様子が見てとれた。最近の傾向として、様々な組織がうまく連携したときにプログラムの充実が加速することが明確になりつつある。それは燕市の取り組みを見ても如実に感じられる。優れたプログラムの運営・実施には専門人材が不可欠。多様な能力が求められる人材の育成は、企業、行政や大学らが交流を強化し、互いに切磋琢磨する場が必要になる。本アワードが人と人をつなぐ結び目になれば、今後もさらに素晴らしい成果が望めるだろう。

法政大学 キャリアデザイン学部 教授
梅崎 修 氏

CLOSING KEYNOTE

クロージングキーノート　卒業後の活躍も視野に

キャリア形成活動が有意義であることは明らかだが、大事なのは学生が卒業後に生き生きと働けているか。マイナビと文部科学省科学研究費による追跡調査の結果、入社後のワーク・エンゲージメントを高めるためには、在学中のキャリア形成活動を通じた社会人基礎力の育成が重要であり、社会人基礎力は自律的キャリア観に強く相関することが確認できた。また就業体験系プログラムは自律的キャリア観と社会人基礎力の醸成に役立つ可能性が高い。まだ未知のことも多く、具体的な方向性が明確でない状況だからこそ、範となるキャリアデザインプログラムを発信する本アワードのような場は、ますます重要になるだろう。

多摩大学 経営情報学部 准教授
初見 康行 氏

主催：「学生が選ぶキャリアデザインプログラムアワード」実行委員会
後援：経済産業省、厚生労働省、内閣府、文部科学省、日本経済新聞社、マイナビ（順不同）

広　告

インターンシップ・仕事体験
エントリー受付中！
マイナビ 2025
まずはアプリをダウンロード ▶▶▶
©Fujiko-Pro, Shogakukan, TV-Asahi, Shin-ei, and ADK